

ASTERIA MDM One MI

移行手順



2013年7月
インフォテリア株式会社

目次

0. 前提	1
1. 準備	1
2. マスター情報の移行	2
2-1. 開発環境のマスターをエクスポート	2
2-2. 本番環境にマスターをインポート	2
3. レコードデータのエクスポート	2
4. 移行できない設定	2

0. 前提

本移行手順は、開発環境の定義と本番環境の定義を同じにすることを前提としています。例えば、本番環境のみに定義した設定を残して開発環境の定義を移行するといったケースには対応していません。その際は下記手順を行わず、手動で定義してください。

ASTERIA MDM One MI では、マスターの移行を行うことができます。ただし、すべての情報を移行することはできないため、手動で登録してください。

- 開発環境と本番環境の ASTERIA MDM One MI のバージョンは必ず同じにしてください。
- [DATA_DIR]はデフォルトで Windows OS の C:\asteriahome フォルダを指しています。インストールの際、上記パスを変更されましたら変更したフォルダを参照してください。

1. 準備

- マスター情報の移行を行う前に、移行できない設定（「4. 移行できない設定」に記述されている情報）をあらかじめ設定します。
- ASTERIA MDM One MI 停止後、本番環境の[DATA_DIR]フォルダをバックアップします。
- バックアップ後、開発環境と本番環境の ASTERIA MDM One MI を起動します。
- 移行作業中は ASTERIA MDM One MI への処理を行わないでください。

2. マスター情報の移行

以下の手順にて移行します。

2-1. 開発環境のマスターをエクスポート

開発環境のマスターポータルを開き、マスター一覧から必要なマスターをチェックし「エクスポート」ボタンを押下します。zip ファイルが保存されます。

2-2. 本番環境にマスターをインポート

保存された zip ファイルを本番環境のマスターポータルのマスター一覧から「インポート」ボタンから選択します。インポートすることでマスターが表示されます。

- ✧ フォームの作成者はマスターのインポートを行ったユーザーが設定されます。
- ✧ 移行先に同じ名前のマスターやテーブル名が存在する場合は、名前を変更するためのダイアログが表示されます。

3. レコードデータのエクスポート

必要があればマスターに登録されているレコードデータをエクスポートできます。マスターポータルのダッシュボードより、該当のマスターとレコードデータを選択して「エクスポート」ボタンを押下します。

zip ファイルの中に CSV のレコードデータが保存されますので、移行先のダッシュボードのデータ作成よりデータをインポートすることが可能です。

4. 移行できない設定

以下の情報はファイルによる移行はできません。移行先のマスターポータルより手動で設定してください。

- ・データベース設定、ユーザー管理、サーバー設定など設定メニューにあるデータ全般
- ・承認フロー一覧
- ・マスターのフォーム、入力方法一覧に登録されている承認フロー
- ・マスターのアクセス権限に登録されている情報

- 改定履歴

日付	内容
2013年7月	新規作成

※本文書の内容を許可無しに無断転載・転用・複製することを禁じます。